2023年度　外国人留学生選抜　「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画	「けん玉、色紙、紙風船、金柑を自由に構成し描く。」 正確なプロポーションをとることができているか。 モチーフの特徴を捉え、その魅力を的確に表現しているか。 木、紙、柑橘類の質感の描き分けができているか等。 色彩の組み合わせの美しさ、的確な空間表現が感じられ、 全体として魅力的な画面を作ることに成功しているかを評価した。	実技試験作品・持ち込み作品の解説やコンセプト、質疑応答について、こちらの意図を理解し日本語で説明できるかを重視しました。	●
油画	今回のモチーフは鏡だった。鏡には教室内の風景が映り込み、鏡の裏側や向こう側も見える複雑な空間となっている。このモチーフのどこに注目し、何を表現しようとしたのかという発想力や独創性を問う。 同時にデッサン力、構成力など基礎的な力を見極めることを意図した。	実技試験ではどこに注目し何を表現しようとしたのか、また提出作品は何を意図したのか、入学後のビジョンはあるのかなどを問い、日本語によるコミュニケーション能力も判断材料とした。	●
版画	「今年度提出文」 ＜デッサン＞ 色彩や質感の異なるモチーフに関して、どのように描き分けるのかが出題の狙いです。基礎的なデッサン力である描写力、観察力、構成力などを中心に、作者の意図や興味、テーマに対する取り組みも含め、採点のポイントとして総合的に評価しています。 ・理解力＝出題内容をしっかりと理解しているか ・観察力＝モチーフの造型性を理解し、正しく捉えているか ・描写力＝形、色、立体、空間、質感、細部などを描写する力があるか ・構成力＝モチーフを適切に配置し、バランス良く構成しているか ・テーマ力＝作者がモチーフの何に興味をもち、どのようなテーマをもって取り組んだか ＜コラージュ＞ 「今年度提出文」 色から発想し、それを写真素材にどのように繋げて、展開できるかを出題のねらいにしています。ここでは発想力、写真素材を選択する映像感覚、そして色と写真を組み合わせて編集する力を主に評価しています。 ・映像感覚＝写真イメージに対してどのようにアプローチしているか ・編集力＝写真を選択し、組み合わせ、編集する力があるか ・構想力＝作品のテーマ、コンセプトを構想する力があるか ・独創性＝独自の視点、感覚をもっているか ・完成度＝コラージュとしての完成度があるか	提出作品やポートフォリオのプレゼンテーションと専任教員との質疑応答の中で、以下の点をポイントとして評価しています。 ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもっているか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	●
彫刻	1_現在までに習得している技術、2_即興的な発想力、両方のバランスを見る。当日の新聞を素材としているのは、2.の即興的発想に対し、選択肢になるべく広い幅を持たせ、瞬発力を見るためである。 世の中の出来事に関心を持つ者、ひとつのワードから想像力を膨らませる者、ストーリーを構築する者。複数の観点から総合的に評価をする。 学生が「現在持っている力」と同時に、「入学後のポテンシャル」が最大の評価基準になる。	・デッサン(実技試験）に意図したこと ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外の関心も含めた簡潔な自己紹介 ・作品ファイルの中から気になった作品をランダムに質問	●
工芸	鉛筆デッサン 対象となるモチーフの形態、素材感、立体感などの基本的な描写力を確認する。また、モチーフ同士の色彩や位置関係などの画面構成を制作意図として表現で出来ているか確認する。	参考文例による質問に対する返答における各受験生の日本語による理解力、思考力、コミニュケーション能力の確認をする。また、ポートフォリオ等の資料の内容、工芸学科への留学理由や志望動機などの確認をする。	●
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン　・理解力　問題の把握、理解が正しいか ・伝達力　問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力　問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力　構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性　デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	面接　・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか	●
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	鉛筆デッサンでは、観察力と基礎的描写力に加え、理解力（出題の意図を把握し理解しているか）を問うことをねらいとし出題しました。モチーフとして「プラスチックケースに入ったミニトマト」を配布し、配布したモチーフは全て描くことを条件として明記することで、日本語で出題された問題文の読解力を測る基準としました。 色彩構成では、表現力（独自の色彩世界が携帯構成と調和的に表現されているか）、伝達力（制作のテーマが見るものに伝わるように表現されているか）に加え、完成度（表現材料の扱いが丁寧で、仕上がりが優れているか）を評価することをねらいとして出題しました。	受験者が授業についていくことのできる充分な日本語能力と、持参作品の造形力を評価しました。 テキスタイルデザインを学ぶ熱意や志望動機を明確に説明できるかを評価の対象とし採点のポイントとしました。面接時に専門試験の回答に対し、自己評価を促す問いかけを行い、客観性や向上心を問うことを目的とした質問を行いました。	●
環境デザイン	環境デザインが対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。 その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定で立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行や広がりを伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。	下記のポイントを重視しています。 ・留学の意図や目標が明確であるか ・デザイン、アートに関連した基礎知識があるか ・基本的な表現技術が身についているか ・日本語による日常的なコミュニケーションが可能か ・学科、コースの制作、教育内容やカリキュラムを理解しているか	×
情報デザイン メディア芸術コース	鉛筆デッサン課題のねらい 1. 与えられたモチーフをどのようにアレンジして、構成するか。そのアイディアと構成力を判定した。 2. モチーフと手の関係、構図、画面構成力を判定した。 3. 鉛筆による描き込みや色調の整え方など、描写力を判定した。	プレゼンテーションで、これまでの作品などの実績について質問します。 作品履歴だけではなく、クラブ活動・趣味創作に関するものなど、幅広いアクビティに関して質問します。 自分の将来に対する制作ビジョンを明解に話せることがポイントです。	●
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ（消しゴム）の鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行なった。 ・対象を見る観察力 ・基礎的な描画力 ・手やモチーフの形・質感などの表現力 ・手とモチーフによる構成力 ・モチーフの特性を考慮した構図の工夫 以上を通じて、観察して描くことに取り組んでもらうことが出題のねらいである。	面接のポイント ・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか	×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	外国人留学生の存在は、他の学生にとっても大きな刺激になります。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の知識をもっているか、などを判定します。	
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視　点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	受験生の、理解力、意欲、独創性、観察力、身体認識能力の確認。 グループワークではコミュニケーションにより創作をより発展させ行く能力の確認。 日本語能力の確認。	当学科を受験した理由。（具体的であるほど望ましい） 演劇や芸術全般への興味、情熱。 日本語能力の確認。	
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。 用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれているかも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感心させ感動させる解答を期待します。	面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望ましいです。 作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来ているかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。 説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話が出来るか、意思疎通が可能な語学力を有しているかも判断します。この学科への志望動機や目指したい方向性が明確かなども重要です。	●

全学科共通小論文
出題）「環境と芸術」について、あなたの考えを述べなさい。（800字程度） 1）今日、アート、デザインを問わず、創作・創造・ものづくりを続ける以上、環境への配慮は切っても切り離せない問題である。環境を損なわない工夫とは何か、環境保護のために創作・創造・ものづくりはどういう姿であるべきか。自身に寄せてこのことをどのように捉えているか。 2）また、都市環境、自然環境など、自身を取り巻く影響と自身の創作・創造・ものづくりをどう捉えようとしているか。 3）SNSやYouTube、メディアなどを環境と捉え、どのように活用するのか、逆に、創作のためにそうしたものからどのように距離を置き、自身を見つめ直そうとしているのか、こういうことも解答の対象となる。 4）複数の顔、意味合いを持つ「環境」という言葉を、真摯に解釈し、論じてほしい。 5）正しい日本語によって書かれているか。また意味内容が明確であり、かつ強い意欲が感じられるかという点についても合わせて考慮した。